

Episode1

テーブルに肘をついて妻が溜め息をついた。こういうことがよくある。家計簿をつけている時だ。今月も貯金ができないらしい。いつものことだった。

結婚して二年になるが、未だに思い描いた暮らしが出来ていないのだ。それは俺もそうだった。

一戸建ての家に住み、好きな車に乗り、時々は外食して美味しいものを食べる。結婚する前に実紀みのりと話したものだ。それほど上流家庭は望まないが、たまには美味しいものを食べに行ったり、旅行に行ったりしようね、

と。

しかし現実には厳しくて、なかなか思うようにはいかない。外食ぐらいはできるが、旅行は無理だった。夫婦共に二〇万を切るような給料では貯金をしていても、マイホームが手に入るのはいつのことになるのか……。

「そんなにきついのか？」

俺は絨毯に寝転がって、スマホを見ながら訊いた。

「ねえ、涼ちゃんのブログどうなの？」

俺は涼介りょうすけなので、妻は「涼ちゃん」と呼ぶ。

「え？」

「それお金になってるの？　サーバー代も馬鹿にならないんだよね」
俺はブログを運営している。ブログのアフィリ収入で稼ごうと思っている

のだが、なかなかアクセス数が上がらず、収入には程遠かった。ワードプレスでブログを作っているので、ドメイン代やサーバー代がかかった。

「それにアマゾンの映画観るやつ。あれも結構家計を圧迫してるんだよ。涼ちゃんそんなに映画観るの？」

「まあ、たまにね」

これは前にも言われた。俺の月々の出費が大きいらしいのだ。しかし俺としては、映画は見たいし、ブログもやりたい。やめろと言われても、そう簡単には決断できないのだ。

そのことで喧嘩になることもしばしばあった。今も喧嘩になりかけている。いつも原因はお金のことだった。

そのことになると、実紀も感情的になるのだ。彼女は将来絶対に家を持ちたいと言っている。俺もその意見には賛成だった。住宅ローンの頭金を貯

めて、持ち家に住みたいと言っているのだ。目標は一千万だが、まだ一〇〇万にも満たない数字だった。これでは妻が溜め息をつくのも無理はない。つい一か月前にも二人で大喧嘩をした。

「だいたいお金にもならないブログなんかやって、なんになるの。いい加減目覚ましなよ。車だってそうだよ。一台は必要だと思ってローンで買ったけど、あんなに大きな車じゃないじゃん。もっと小さいのでよかったんだよ、足になればいいんだから」

「なんでだよ。どうせ買うならちよつとでもいい車に乗りたいじゃん。お前だっていいって言っただろう。今になって俺が悪いみたいな言い方するなよ」

「あれは涼ちゃんがどうしても欲しいって言うから仕方なく言ったただだよ」